

# EASTER VILLAGE

イースタービレッジだより・第 28号



ハイエースに石で落書きをしていたジャベット。もうすぐ家族のもとへ戻れます。成長しました。

## 家族が一番

祐川郁生神父

フィリピンは日本と違い、人は大家族の中で生まれ、育てられる。家で生まれ、家で家族に囲まれながらこの世を去る。人間として家族ほど大事なものは無いのだ。

このような文化の中で、家族から見放されたり離散した場合、その苦しみはいかばかりだろうか。

フィリピンの福祉の考えの根底にもこの「家族」の絆がある。児童養護施設は、あくまでもこの「家族」へ戻す、あるいは、新しい家族を見つけるための一時的な保護所に徹すべき存在なのだ。

核家族化が進む日本では、当然のことながら施設で育ち、そして施設を巣立っていくケースが多い。それは家族のもとへ帰すよりもまだ施設にいた方が「まだまし」との考えが強いからだろう。

イースタービレッジに一歳九ヶ月から七歳までいたインダイも無事に母親のもとへ帰っていった。こちらとしては、寂しい気持ちが大いだが、家族との絆を取り戻せる過程にかかわった喜びもひとしおだ。これこそがビレッジの役割で、子ども一人ひとりのケースを見極め、最善の方法を探していく。

妊娠中からすでに親権放棄される赤ちゃんの行き先も、最終的には施設ではなく、家族だ。肉親のもとへ帰るすべての可能性がなくなつた場合、新たな家族を見つけてあげる。それもこの使命。国際的なアダプション（養子縁組）組織とも連携を組み、一番その子にあって、大事に、愛されて育ててくれる新たな「家族」をみつける。

イースタービレッジはあくまでも、家族との絆の回復、絆の構築のために、「道具」に徹しなければならぬ。一緒に暮らしている間は真の家族のように愛情を注ぎながら。

## クリスマス

毎年少しずつ飾り付けを増やしてきた成果です。一番寂しい思いをする季節、夜になると歓声を上げます。



野外の集会所。毎年この中に馬小屋を飾ります。ライトアップされてとても神秘的です。



聖心ホールのペランダから見たE Vの全景。

もちろん、クリスマス会でもみんな楽しんでんだり、サンタさんに約束とお願いの手紙を書いて、プレゼントもいただきました。



クリスマスパーティーで楽しむ子どもたち

## 聖心聖堂完成

三月一日、午前九時より、新聖堂の祝福式が、キダパワン教区長、ロムロ・デラクルス司教によって執り行われ、ミサが捧げられました。日本からは聖心の布教師妹会長、シスター後藤、また、シスター平田が参加されました。



建物の構造やデザインなど、シスター後藤と祐川神父、それにエンジニアのランランとで話し合っこの形になりました。

この聖堂は最後の最後まで与えつくれたイエスの聖心に捧げられる聖堂で、SACRED HEART CHAPELと呼ばれます。



聖堂の玄関を出ると真正面にこの絵が飾られています。イエスと子どもたちの絵

祝福式とミサには、ダバオのサクラメント会のシスターや司祭、また、いつもお世話になっている本田修二・メルセデータご夫妻、ダバオ生まれで18歳で日本に帰国し、その後、日系人のために尽力されている内田さん、彼はその貢献から「ダト」の称号をもらっている唯一の日本人です。病気がちにもかかわらず、足を運んでいただきました。

地元の司祭や信徒、聖歌隊、そして、E Vの子どもたちや職員、総勢80名程度でしたが、式は厳かに行われました。特にビビの歌った答唱







右から本田修二さん、メルスさん



ダト内田さんと中島さん



豚の丸焼きの他にもこのメニューで



歓迎の歌を歌う子どもたち



左からシスター後藤、勝、平田、中原、春日井



身障者用のトイレを作る際にアドバイスを受けました

詩編は感動を呼びました。ギターの伴奏はプロのギタリスト本田修二さんです。この様子はEVのホームページのYOU TUBEリンクからご覧いただけます。この他のビデオもどうぞご覧下さい。

聖堂と同時に、トイレ三つを改装し、一つは身障者用にしています。これで車椅子でも教会に来られます。フィリピンではまだバリアフリーの教会が少ないのが現実です。それでは当日の写真をご覧下さい。



ご寄付いただいた方々、

心より御礼申し上げます

(敬称略、順不同)

- 大瀧浩一 高桑春男 カトリック北26条教会
- 柴田満里子 剣持芳郎 マリア幼稚園 斎藤正俊
- 松苗博子 マホ口の会代表・大宮睦子
- 聖ベネディクト修道院 武田テチ子
- 浜田充啓 つばみ幼稚園 長谷川敬
- 藤女子高等学校 瀬尾俊範 白崎三千年
- 白崎月子 函館白百合学園幼稚園 中村義子
- 鳴海聖園 天使園職員一同 栗原幸子 祐川眞一
- 金子岩男 福田幸子 阿部秀子 黎明幼稚園
- カトリック小野幌教会 キアラ会 吉岡亨
- 阿部嘉秋 祐川暢生 辻崎祥子・恵和子
- 高橋昭一 浦本裕子 田上紀子 佐藤道子
- 松村輝子 八木山カトリック幼稚園 上野祐子
- 濱村みち子 灯台の聖母トラピスト修道院
- 岩山道子 成島蓉子 本田修二・メルス夫妻
- カトリック円山教会・EVを支える会
- 舛田富榮 梅津明生 尾花多見子
- カトリック倶知安教会
- 札幌地区カトリック女性の会・環
- 佐山淑子 浅野直 難波則子 山岡安江
- 立花正博 エミール神父
- 気仙沼カトリック幼稚園
- 深堀由布子 堀田敏弘 宮武玲子
- カトリック宮前町教会・信徒会
- 聖心の布教姉妹会
- その他匿名の方々



2009年11月21日～2010年2月19日



# イースターレッツの昨今

## モールツアー

年末は恒例のダバオ市でのモールツアーが行われます。ダバオに一泊し、公園を散策したり、自分のお小遣いで面白い物を買ったりプールで泳いだりと楽しいツアーになりました。



ダバオの公園(上)とメルグランデリゾートホテルのプールで(左)



## 訪問者の紹介

一月には札幌のE.Vを支える会長の勝谷神父様が来てくれました。いつものように得意の手工品で子どもたちを喜ばせてくれました。また、ご自分が園長をされている北広島天使幼稚園の子どもたちがお遣いを貯めてくれた献金をもって来て下さいました。



毎回の訪問で子どもたちは手工品を期待しています。今回は何でもないフリスビーが宙に浮くという離れ業。この他にも針と糸を飲み込んで出す手工品。楽しませてくれます。



職員も子どもも「不思議、不思議」の連発。ケニスだけは冷静にタネを明かそうと注意深く見ていました。

二月には、これも毎年恒例となりつつある「ルカジャパン」のメンバーの方々が訪ねて下さいました。今回は医師三名、看護師二



左から看護師の北村さんと吉田さん。小児科医の中村先生、内科医の飯塚先生、常連の内科医の堀田先生、そして事務の椎野さん。

名、事務職員一名、いずれも聖路加病院の関係者でルカジャパンというグループを作り、国内外の医療事情を知り、見識を広げる活動をしています。E.Vでも重い心臓病を患っていたケインちゃんの手術に関して、多大なご支援を頂きました。今回のメンバーは何と日本から花火を持ってきてくれました。また、よく練習してきたオクラホマミキサーやマイムマイムの踊りを子どもたちと踊りました。



普段は多忙の先生方もE.Vの子どもと思いきり遊んでくれました。花火も一緒に。日本の線香花火は本当に優美です。



## 救急トレーニング

以前から市の保険局にお願いしていた救急トレーニングを行いました。職員と年齢の上の子どもたちが一日、いろいろな想定で練習しました。いつか役に立つ時がくるでしょう。



いざという時に役に立つ救急の仕方を学びます。人形を使ったり、お互い患者になったりと、一日かけての研修でした。

## ボランティア

1月の末、日本から来ていた金子君(タカ)と萬屋君(タク)が無事に帰国しました。二人はEVで子どもたちとふれあい、人生を歩む上で大切なものを発見したようです。これから、「こは君のふるさと」と思っ



毎日、子どもたちを抱きしめてくれました。ジェニスとユミと。



タカとタクと一緒に歌うビビとウィナリン。タカのギターでYou Tubeにビビの歌をデビューさせました

2月に入り、ニュージーランド人のボランティアでフロー・ウッドリー(FLEUR WOODLEY)さんが、一ヶ月程度の予定で来てくれています。

彼女は外国人に英語を教える正式な資格を持っており、子どもたちにも遊びやジェスチャーを通して楽しく英語を教えてくれています。

す。また、EVCCの子どもたちとも遊びの中でABCを教えてくださいます。オーストラリア、ベトナム、韓国、中国などでもボランティア経験を持つだけあり、本当にスタッフの目の届かない部分をさりげなく補佐したり、そのバイタリティーに驚きます。この後、タイにボランティアに行く予定です。冒険心あふれる23歳の女性です。



フェイス・ペインティングの道具も持ってきて、土曜日には子どもたちと仮装大会に。似合うかな？



この他にも地元キダパワンからは大学の看護コースやヘルスケアコースの学生が実習に入りました。近隣の町の大学や専門学校からも実習の申し込みがあります。



看護学生たちと最終日に歌を歌ったり踊ったり。美味しい食事も持参してくれて、楽しい時を過ごしました。

地域に開かれた施設として人々に知られるようになってきました。また、四月からは、日本から新しいボランティアもやってきます。また、神学生も研修でしばらく滞在する予定です。

聖堂もでき、土地も広くなり(3ヘクタール)、いよいよイースタービレッジ(村)になってきました。いろいろな素敵な出会いがここにありますように。



After various emails, a few flights and a bumpy drive later I made it to Easter Village, and what a welcome! I have been greeted with such kindness, it's awesome! I have been having such a great time watching all the kids just be kids, with big smiles and warm hearts all around them. From my early wake calls from Japeth in the morning, to "Head shoulders knees and toes" around lunch to being chased around the grounds in the evening, it has all been such a blast. The kids are such gems who are eager to learn and ask questions. Thank you to all the amazing staff and supporters who make this happen.

電子メールのやり取り、飛行機を乗りつなぎ、でこぼこ道を通ってイースタービレッジにたどり着き



五人兄弟の末っ子。男の子の中で育ったせいか冒険心旺盛

ました。そこにはすばらしい歓迎と親切のおもてなしが待っていました。笑顔と温かい心をもった子どもたちとすばらしい時を過ごしています。朝の目覚ましはジャパットの呼び声で始まり、「肩、ひざ、つま先」の英語の歌で遊び、夕方にはかけっこ。すごい子どもたちです。好奇心旺盛の子どもたちにも多くの質問責めにあっています。この施設を可能にしている素晴らしい職員や支援者の皆様に感謝いたします。 フロー・ウッドリー

### 誕生日おめでとう

2009年12月11日で初めての誕生日を迎えたジョイス。年が明けて1月生まれの三人、5日生まれのジョービンは14歳、9日はエンジェル、10歳になりました。E.Vで初めての誕生日を迎えたジェニスには15日で5歳になりました。続いて2月生まれも三人。ディンプルが12日で9歳。ターザンことダニーロが24日で7歳。1歳9ヶ月で来た時は、まだ赤ちゃんでしたが、今は元気に小学校に



通っています。26日はエリサの9回目の誕生日。初聖体も受けました。

ジョイスはようやく一歳を過ぎてヨチヨチ歩きができるようになりました。ジョービーはE.Vでは良く下の子を面倒みるお姉さん。おとりのエンジェルももうすっかりお姉さんです。ジェニスは5歳になっても甘えん坊。お兄さん二人に守られ、きかない性格で時々喧嘩もしますが、かしこい子どもです。



ディンプルはまたE.Vに戻ってきて暮らしています。相変わらずの元気過ぎ？です。ターザンはすっかりお兄さんの貴族を持つようになり、時々自分より下の子どもをいじめたりもしますが、面倒もみまします。エリサはピアノを習い、音楽が好きなお子。下の子どもの面倒をよく見まします。特にC.Jをいつも抱っこしています。C.Jはご覧の通りのヤンチャに育っています。



## いたずらエマン



僕は復活村の修道院へ去年11月、生後2ヶ月でやってきたラブラドルの男の子。生まれつきやんちゃくれのいたずら坊主だから、毎日いたずらをしているか、寝ているか。寝る子は育つと云うけれど、4ヶ月を過ぎた頃から日に日に大きくなり、シスターに叱られていつも逃げ道にしていた扉の柵をくぐろうとしたら、昨日まで抜けられたのに今日くぐれないんだ。シスターに大笑いされプライドがキズついて、おしっこをして反抗したんだ。

お昼の食事も気がつかなくて寝たこともあるけれど、この間は昼寝をしている僕にシスターは「そんなに寝てばかりいるとガードマンにはなれませんよ」って云うから「うるせえなあ」って寝返り打ったらベッド代わりにしていたテーブルから落ちこちて、また、シスターに笑われて、腹を立てた僕はテーブルの下でふて寝したんだ。



修道院の中は入ってはいけない事になっているのに、この間ミサ中に聖堂に入り込んだんだ。ファーザーは「追い出さないでください」って優しくかったけど、そこにあった聖書をくわえて出ようとして、シスターに取り上げられ、殺虫剤の缶を啜って出て遊んでいたら、ミサが終わって出てきたファーザーが、「エマン、侍者ができるようになったらいいなあ」って言うてくれて、僕はうれしかったなあ。知能指数の高い僕だから、教えたら、名物侍者になれるかもしれないね。

5カ月になったこの頃は、立ったら小学校の1年生より大きいから、最近まで良く遊んでくれたE.V.の子どもたちも、加減を知らない僕を怖がって、夕方の6時になってアンジェラスの祈りのため子どもたちがお部屋に入るまで、僕は芝生の真ん中に長い3mの鎖でくくられているんだ。この杭も2度も抜いて重い鎖を引っ張って歩いたんだよ。力があるでしょう。夕焼けの美しい庭で3mもあるやしの葉を啜って全速力でぐるぐる廻って遊んでいたらとても勇壮だったんだって。今度ショーをやろうかな。その時僕の特技、太いロープを短く切って両端を結んだ、本当は噛むためにファーザーに買ってもらったのだけれど、それを啜って後ろに投げると、とてもよく飛ぶんだ。それを取りに行くと又投げて、とても楽しい遊びなんだよ。それとステンレスの水入れの底の滑り止めは取ってしまって水を全部ベランダにあけて、前足で後ろへ蹴って、後ろ足の下をくぐらせては走り回るのも楽しいよ。時々、その水で自分もすべってころびながら。これも披露したらいいかなあ。



グッドボーイの僕に一目ぼれというのかなあ。近所のお姉さん犬が何回か遊びに来たけれど、まだ足を上げておしっこすることも知らない僕は、そのお誘いにはのれなくて、もう来なくなったけど、僕はやっぱり小さい時からよく知っているファーザーのところのシーズー犬ダヤンが大好きなんだ。半年位年上だけれど、僕がここへ来た時は同じくらいの大きさだったのに、僕がだんだん大きくなって、今は僕の頭にのれるんだ。気心が分かっていて、僕のいたずらも相手にしてくれるし、暑いからファーザーに毛を刈られたダヤンは、隠れていたクリクリ目が見えてとても魅力的なんだ。この頃は仲良くほぼずりの挨拶もできるんだ。でもあまり小さいから僕のお嫁さんというわけにもいかないから、やっぱり僕は独身で修道院のガードマンが一番似合ってるかなあ。

E.V.はもう一匹トゥーフィーというおじさんがいるんだ。とても穏やかで子どもたちとも仲良しかだけれど、知らない人が来ると吠えて教えるんだ。僕が悪ふざけした時もしっかり叱られてしまった。とても威厳のあるおじさんだ。僕も一歩さがって挨拶するんだ。僕も大きくなったらあのように穏やかで強い番犬になれるかなあ。

KAZU



バリンビン (Balimbing)



バリンビンと呼ばれるこの果物は、フィリピンではあまりにも「そこにある」ので、あまり市場などでは見かけません。星の形をしているので英語ではstar fruitというとか。甘いのと酸っぱいのと二種類あるそうで、酢や塩をかけて食べるのだとか。ビタミンCが豊富なので特に山の方の人たちは日常的に食べているようです。のどの渇きには一番良い果物だそうです。ぜひお試しあれ。

<支援のお願い>

フィリピン南部にあるイースタービレッジ・ミンダナオは善意ある日本の皆様に支えられています。貧困と紛争の犠牲者となっている声なき子どもたちを私たちが支え、そして彼ら自身が自立し、貧困と紛争の原因を取り除く平和の使者となるようにできるだけ援助をしたいと考えています。与える以上に受けるものの方が本当はもっと多いのです。援助をくださる方は下記事務局にご連絡くださいませ。

「イースタービレッジ・ミンダナオを支える会」(支援者募集)

代表 勝谷 太治 事務局 鈴木 みち子 松川 厚明  
060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10 カトリック札幌司教館内

「イースタービレッジ・ミンダナオを支える会」事務局

011-241-2785 Fax 011-221-3668

支援金 : 年会費一口 ¥5,000 (一口以上) 一般寄付

郵便振替口座番号 : 02760-3-39473

口座名称 : イースタービレッジ・ミンダナオを支える会

現地事務所: EASTER VILLAGE OFFICE

Riverpark Subd., Kidapawan City 9400 Cotabato Philippines

Tel: 63-64-278-4742 Fax: 278-3116 Email: info@eastervillage.com

Website: http://eastervillage.com

\* 会員、並びに奨学生を支えて下さっているスポンサーの方々、一般のご寄付を下さった方々には継続してこのたよりを送らせていただきます。(年四回)

2010年3月

「イースタービレッジだより第28号」

発行責任者: 祐川郁生



